

中心市街地に  
よみがえる  
江戸時代の姿と心。

### 東曲輪の隅櫓再建

石垣含め高さ10m以上



岡崎公園バス駐車場の南東角にあった岡崎城東郭の隅櫓(すみやぐら)が、09年度に再建されます。江戸時代の絵図を元に、広島大大学院の三浦正幸教授の監修を受け、木造2階建て延べ72平方メートル、石垣部分を含めると高さは10メートル以上になる予定です。東郭隅櫓は、城の中核となる二の丸に繋がる切り通しを守る最後の砦で、岡崎城が解体された明治初頭まで敵ににらみをきかす存在でした。岡崎市の中心市街地のかなりの部分は、もともと岡崎城の中にあり、まち歩きで歴史が楽しめます。

### … おかざき塾 講演会 …

～石垣発掘から見えるもの～  
「岡崎城再発見」

広島大学大学院

講師；三浦正幸教授

日時；1月27日(日)PM1:30～PM4

場所；長誉館(中町6丁目3-10)

参加費；おかざき塾会員 1000円

非会員 1500円(懇親会費含)

### トピックス

#### 家康公の「しかみ像」設置

07年11月、岡崎公園二の丸能楽堂前の竜の噴水広場に徳川家康公の石像「しかみ像」が設置されました。「徳川家康公三方ヶ原戦役画像」を元に彫刻師・小林道明氏が彫刻、徳川記念財団理事長で、徳川宗家18代当主の徳川恒孝(つねなり)氏が岡崎市に寄贈したものです。



除幕式の徳川恒孝氏

元龜3年(1572)12月に、当時31歳だった家康公が、2万7千人の武田軍の挑発にのり、わずか1万1千人の軍勢で無謀にも戦いを挑み大敗しました。これが三方ヶ原の戦いです。上に立つ者の愚かな判断が、千余人の味方の死に繋がりました。この時、家康公が自戒のため描かせたのが「徳川家康公三方ヶ原戦役画像」です。

#### ■発行

電車どおり5商店街

○能見北発展会

○本町通三丁目商店街振興組合

○岡崎銀座商店街振興組合

○殿橋通発展会

○岡崎明大寺商店街振興組合

#### ■協力

岡崎商工会議所

岡崎市観光協会

#### ■編集協力

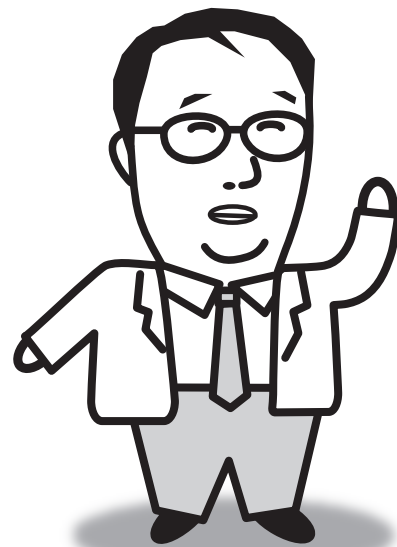
おかざき塾

三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」

# 電車 どおり 1/4版

2008年(平成20年)1月・2月(第12号)

電車どおりの住民が  
ご近所のネットワークを活かし  
まち歩きを楽しむ  
オススメのポイントをご紹介します。



開催家3  
催世康月  
し絵館12  
てので日  
ます中ま  
すよの三  
武河武士  
展を展を

# 岡崎城 ルネサンス

### 外堀の石垣発見

国内4番目の規模の城



岡崎市は康生通西3丁目の公園で、岡崎城の外堀である大林寺郭(くるわ)堀の石垣の発掘を決めました。これは、100メートル西の材木町1丁目のマンション建設用地で02年2月に発見され、安土桃山時代末期に築かれた自然石を積み上げる「野面(のづら)の乱積み」という古い築造方法の貴重な石垣と確認されながら、民有地のため保存できなかったことをうけ、史跡岡崎城跡整備基本計画の一環として実施されるものです。江戸時代の城郭絵図では、大林寺郭堀は同公園地下まで続き、石垣の発見はほぼ確実とされます。城郭研究の第一人者である広島大大学院の三浦正幸教授は、天守閣からの距離が500メートルもあることから、日本の城郭として、江戸城、大坂城、姫路城に次ぐ4番目の巨大な城であったことが証明されたとし、近年まれにみる大発見と注目しています。